

桂川だより

26年度 3月
特別号

京都市立桂川小学校
校長 奥田 直孝

子どもを共に育む
京都市民憲章



第2回学校評価

《後期学校生活のふりかえり》《保護者アンケート》結果

今年度も残すところ1か月足らずとなりました。本校では、学校教育目標『夢をもち 自ら考え 正しく判断し すすんで行動できる子ども』の育成に向け、全教職員が一丸となって取り組んでまいりました。保護者や地域の皆さまには、様々な場面で本校の教育活動を支えていただきました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本校の今年度の取組を振り返るため、1月に第2回学校評価を実施いたしました。保護者の皆さまには、お忙しいところアンケートにご協力いただきありがとうございました。

今回の学校だよりでは、その学校評価の結果を分析・考察してお伝えします。また、裏面に、自由記述欄に書いていただいた保護者の方々からのお声を、ほんの一部ではありますが紹介しております。このような形で学校評価の結果をお知らせすることで、本校の課題を教職員だけでなく、保護者や地域の皆さまとも共有し、今後の桂川小学校教育に生かしていきたいと考えています。

本校の取組に対するさらなるご意見等ございましたらお寄せいただきますと共に、各ご家庭や地域でも、本校の課題が少しでも改善に向かうよう、お力添えをいただければ幸いです。



◎ 保護者アンケートの項目は以下の通りです。「どのくらい重要だと思うか（重要度）」と「どのくらい実現できているか（実現度）」についておたずねしました。

【確かな学力】

① 子どもに基礎的な学力がつくこと

② 自分から進んで学習する子どもに育つこと

③ 子どもが自分の思いを伝えられること

④ 教師がわかりやすい授業をすること

⑤ 子どもに、家庭学習に進んで取り組む習慣がつくこと

⑥ 子どもに読書の習慣がつくこと

【学校・家庭・地域の連携】

① 学校の教育方針や考えが保護者に伝わること

② 学校のホームページや学校だより、学年・学級だよりなどで学校の様子がわかること

③ 子どものことについて担任や学校に相談できること

④ 学校が保護者や地域の方々と交流を深め、開かれた教育活動を進めていること

【豊かでたくましい心・健やかな体】

① 子どもが楽しく学校に通っていること

② 子どもが物事の良し悪しを判断して行動できること

③ 子どもが元気よくあいさつできること

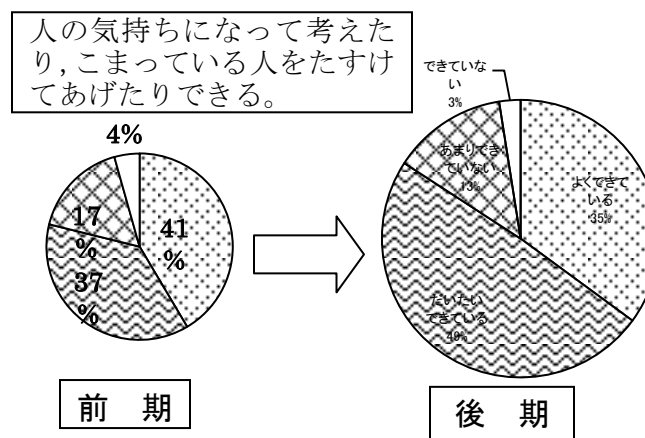
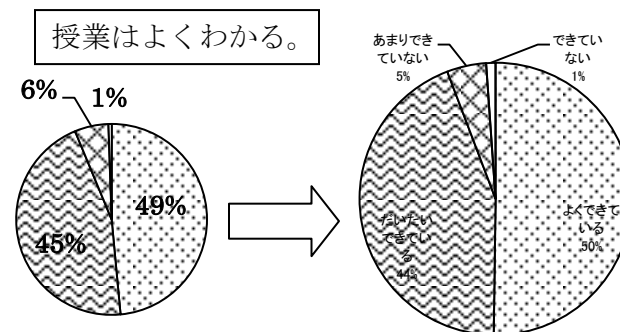
④ 子どもがきまりや約束を守って生活すること

⑤ 子どもに思いやりの心が育つこと

⑥ 子どもが毎日朝食をとること

⑦ 子どもが適切な睡眠時間をとること

《児童の「学校生活のふりかえり」より》

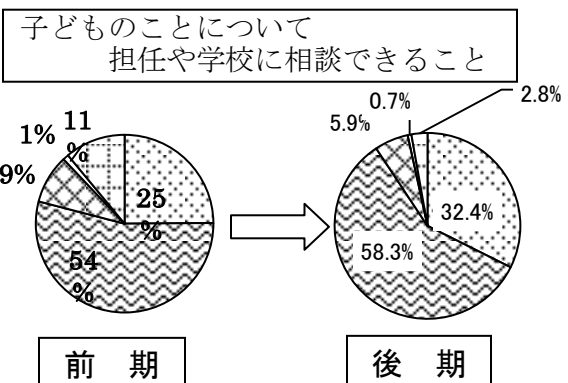
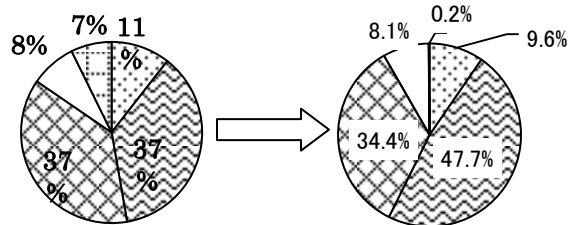


「授業はよくわかる」と答えた児童は「だいたい」も含めて9割以上で、このことは前期と変わりません。授業にはしっかり取り組んでいる子どもたちの姿が見えてきます。

人を思いやる気持ちについては、「よくできている」が前期よりやや減っているものの、できている児童が8割をこえています。「こうすればよかった。」という反省も含め、人の気持ちや困りに気付くことのできる心の成長がうかがわれます。

《保護者アンケートの結果より》

子どもに家庭学習に進んで取り組む習慣がつくこと



保護者アンケートのグラフには、最後に「わからない」という選択肢が加わりますので5項目になります。

保護者の方からいただいたアンケート結果では、各項目の重要度について、いずれも「重要である」が97%をこえていました。

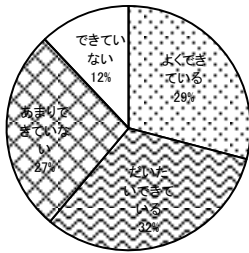
また実現度については、「よくできている」「大体できている」と返答いただいた割合が、前期に比べて高くなっていました。今年度の取組の成果を評価していただいたと感謝しています。

左のグラフからは、家庭学習に進んで取り組める児童が半数をこえたこと、保護者の皆様が担任や学校との信頼関係を築いてきてくださったことがわかります。ご家庭と協力しながら今後も教育活動を進めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

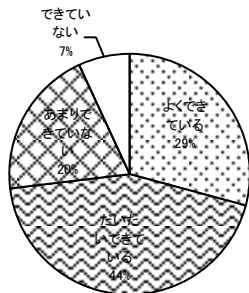
本校の課題

すすんで学習する

授業中はすすんで発表している。



わからない時は、質問したり調べたりして解決している。

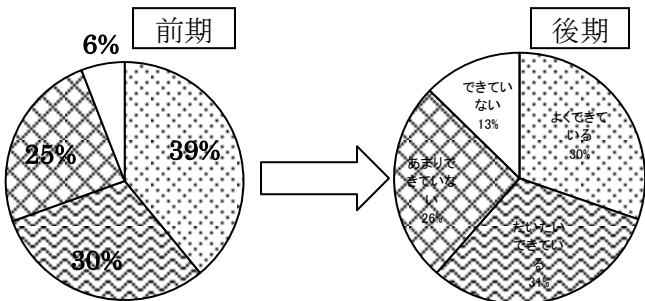


上のグラフは、いずれも後期に実施した児童の「学校生活のふりかえり」結果です。前期にも同じ項目で実施していますので、その結果と比べてみると、「よくできている」「だいたいできている」と答えた児童の割合が、それぞれ数ポイントずつ下がっています。

学習が進んで内容が難しくなり、自信をもって発表したり自分の力で最後まで粘り強く取り組んだりするのが難しくなった、間違えることが心配でなかなか手を挙げられないなど、いろいろな理由は考えられます。しかし、本来「できている」と答えられる児童が増えていることが望ましいのですから、教員が指導方法を工夫し、誰もが安心して自分の意見を発表したり、意欲的に学習課題に向かったりできる学習集団を育てることに、より一層力を注いでいかなければなりません。

読書の習慣を身につける

読書が好きで本をたくさん読んでいる。



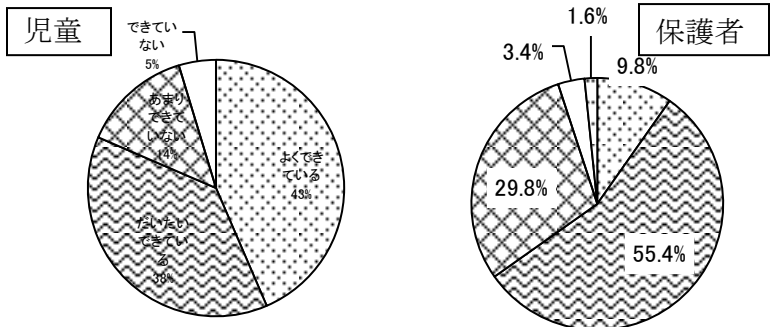
上のグラフは、「読書が好きで本をたくさん読んでいる。」という項目に対する回答を、前期と後期とで比べたものです。

本校では、読書ノートの活用や読書週間の取組、朝の「ぐんぐん読書」など、読書習慣を身につけられるように取り組んできました。また、学校運営協議会図書館活動部会のメンバーによる「絵本の日」や「土曜学習」での読み聞かせ、絵本館スタッフによるブックトーク、図書館支援員の配置や図書館の本の充実も行ってきました。それでも、「できていない。」と答えた児童が増えてしまっているのは、本当に残念なことです。後期になって子どもたちの生活がより多忙になったからでしょうか。あまり本に興味を示さない子どもたちにも読書習慣を身につけることの難しさを痛感します。

本校ではこれまでの取組を見直し、意欲的に本に向かったり、ジャンルを広げたりして、読書習慣をしっかりと身につけられる子どもを増やしていくためのアイデアを出し合っていると考えています。

元気よくあいさつができる

元気よくあいさつができる。



上のグラフは、「元気よくあいさつができる」かどうかについて、児童の回答と保護者の実現度を並べてあります。いずれも後期の結果です。

子どもたちは8割以上が「できている」と答えているのに対して、保護者の方は6割程度にとどまっています。子どもたちが思うほどおうちでのあいさつはできていないということでしょうか。家族の間でもしっかりあいさつができるよう、おうちの方からの声かけをお願いします。

そして、自由記述欄や登下校の見守りをしてくださっているPTA・地域の方々から上がってくるのは、相変わらず「あいさつができていません。」というお声です。しかし、「あいさつをしよう」と書かれたパネルを使って声かけすることで、元気なあいさつが返ってくるようになったと言ってくれる方もあります。

あいさつはコミュニケーションの基本です。学校と保護者と地域が知恵を出し合いながら、あいさつが自然にできる子どもたちを育てるために引き続き取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

《保護者アンケート自由記述欄より》

- ◎ 「持久走大会を校内でやってもらおうと応援にも行きやすい。」というご意見を複数いただきました。安全を確保した上で、しっかりと一定の距離を走らせたいという理由から、嵐山東公園でコース設定をしています。来年度は、体育館改修工事の関係で、持久走大会は12月のうちに実施する予定をしています。
- ◎ PTAの役員をされた方は、「自分も以前はできるだけPTA活動は避けたいと思っていたけれど、今回そこに参加することで、たくさんの保護者や地域の方々が関わってくださって学校生活が送れていることを痛感した。日常、積極的に活動をされている保護者や地域の皆様に感謝したい。」と書いてくださいました。PTA活動などを通して教育活動に関わっていただくことで、学校のこと、子どもたちのことをより深く多面的に知っていただくことができます。貴重なご意見をありがとうございました。

- ◎ 地域に密着した学習や給食週間のハッピーキャロットの取組などを書いてくださった方もありました。子どもたちがそのことを楽しみにしておうちでも話題にしてくれていることがわかり、教職員の励みとなりました。

